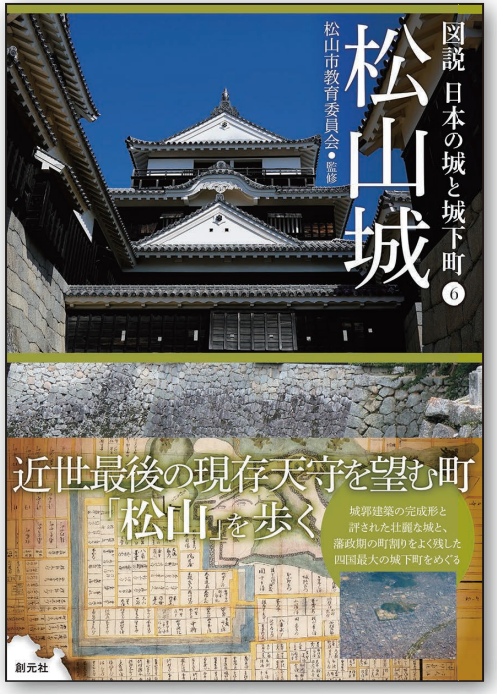
創元社創業
130周年記念出版

図説 日本の城と城下町

城郭を中心に発展してきた町の歴史・文化を探訪するシリーズ〈全10巻〉



図説 日本の城と城下町⑥

松山城

松山市教育委員会●監修

近世城郭最終形の現存天守をもつ松山城と城下町の見どころを、多数の写真、古地図、地形図とともに案内するシリーズ第6弾。

俳人・夏井いつき氏巻頭インタビューも収載

特別インタビュー

俳人 夏井いつき

偉人が残した大河をたどり「俳句の都」で種をまく

テレビやラジオ出演などを通して、俳人として精力的に活動している夏井いつきさん。現在の活躍があるのは、活動拠点を正岡子規や高浜虚子、河東碧梧桐らが生まれた松山に置いているからこそ、と。松山という、俳句の都と呼ばれる理由や松山城をきっかけに街の魅力について話を聞いた。

プロフィール 1957年、愛媛県南宇和郡愛南町生まれ。松山市在住。俳句集団「いつき組」組長。中学校国語教諭を8年間勤めたのち、俳人へ転身。毎日放送・TBS系「ブンバトリ」俳句コーナー出演など活躍。『孤軍から人生』（小学館）など著書多数。

活動を支えてくれた俳句の都・松山

――松山の特徴について教えてください。

夏井 松山はコンパクトで住みやすい街です。俳句のこと以外ではあまり出歩かないので、移動は電車や自転車で事足りています。

私は愛媛県南宇和郡愛南町（現在の愛南町）の生まれで、田舎の人間でしたので、松山は都会だというイメージしかもっていませんでした。8年間の教員生活のあと、俳人として松山に住み始めたのは30歳を過ぎてからで、30年以上になりました。

俳人になると宣言して活動を始めましたが、私一人で子どもを2人育てながら生活していかなければならなくなったときには、苦労を覚悟していました。そんなとき に助けてくれたのが、俳句の都・松山という土地でした。その当時、俳句の世界に若い人はほとんどいませんでしたので、そういう人や大人たちに向けて俳句を知ってもらうための種まきを始めました。

このままでは俳句の根っこが細くなっていくかもしれない、と勝手に危機感を抱いての活動でした。人脈も金脈もない、ただの俳句好きのおばちゃんでしたが、子どもたちへの種まきも続け、そんななかから「俳句甲子園」にも関わっていくことになりました。

今の私が俳人として飯を食べられるようになったのは、松山に俳句文化の土壌があったからだと思っています。だからこそ活動の拠点を松山に置いて、松山の人に喜んでもらえるような活動をする。これが私を育ててくれた松山に対しての恩返しになると考えています。

同じ場所に何度も訪れる「定点観測」は俳人の性

――松山の街でよく行く場所はありますか。

夏井 どこか特別な場所へ行こうと思って出かけることはあまりありません。俳句の題材を求めて街を歩く「吟行」で、同じ場所へ何度も出かけることはあります。一度行ったところでも、違う季節、違う天気、違う心もちで改めて訪れると、違う場所のように感じられるのです。

俳人は吟行で「定点観測」をする習性があるので、毎年同じ場所へ集まることになります。私が選者としてのお付き合いをしている愛媛県内の俳句の会の場合、毎年1月に「道後温泉」で集まりますが、ここは1月の温泉街の雰囲気が好きで、毎年ここを選んでいます。

9 特別インタビュー

8

シリーズ一覧

- 図説 日本の城と城下町① **大阪城**
- 図説 日本の城と城下町② **姫路城**
- 図説 日本の城と城下町③ **江戸城**
- 図説 日本の城と城下町④ **名古屋城**
- 図説 日本の城と城下町⑤ **金沢城**

…以下続刊（全10巻）

創元社 定価1,650円（1,500円）⑩ A5／並製／160頁